

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月14日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏名	手嶋 進
研究課題	サステナブル・アントレプレナーシップの普及要件 — 地域再生可能エネルギー事業を事例として				
研究キーワード	サステナブル・アントレプレナーシップ、再生可能エネルギー	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	13. 気候変動に具体的な対策を	12. つくる責任 つかう責任	11. 住み続けられるまちづくりを	

1. 研究成果の概要

研究のテーマは、地域コミュニティが主導もしくは便益を享受するような小規模分散型の再生可能エネルギー事業（地域再エネ事業）の事例を、サステナブル・アントレプレナーシップの視点から分析し、事業がどのように普及していくのかを明らかにすることである。地域再エネ事業を、地域コミュニティのステークホルダーとの関係や地域経済への影響を論じた研究はあるが、アントレプレナーシップ論やビジネスモデルの普及など経営学的視点で分析した研究はわずかしかない。地域再エネ事業は類似しているように見えても、そのビジネスモデルの詳細は地域の状況や時期によって異なっている。そこで、本研究は地域再エネ事業の事例を研究し、事業の何が普及していくのか、また、どのように普及していくのかを明らかにすることを目的とした。また、詳細な事例研究から得られるインプリケーションは、実務を行う事業者にとっても有益な情報を提供できると考えた。

理論的枠組みについては、2021年度後半から今年度前半にかけて、利潤追求以外の使命を持って活動するアントレプレナーシップの概念整理を行なった。具体的には、社会課題解決を使命とする「ソーシャル・アントレプレナーシップ」、自然環境の悪化防止を目指す「エコプレナーシップ」、経済的価値だけでなく社会・環境価値をも同時に追求する「サステナブル・アントレプレナーシップ」の概念を整理した（以下、「3種類のアントレプレナーシップ」とする）。ソーシャル・アントレプレナーシップの視点を地域再エネ事業の分析に用いた研究はわずかながら存在するが、3種類のアントレプレナーシップの概念を比較して適用した研究は見られない。3種類のアントレプレナーシップ概念を、価値創造、アントレプレナー、組織、市場指向性（事業収益のあげ方）、イノベーションの下位概念に分けて、どの概念がより地域再エネ事業の分析に適しているかを考察した。結論として、全体的にはサステナブル・アントレプレナーシップの概念を用いることが最も事業を説明できると評価した。ただし、ソーシャル・アントレプレナーシップの利他性や倫理性などは地域再エネ事業には有益な示唆を与えることもわかった。また、エコプレナーシップ研究には事例が多く含まれており、これら事例は今後の事例研究の参考になる。研究の成果は、2022年12月にCUC Policy Studies Reviewに掲載された。

今年度は事例研究にも着手した。各地で地域再エネ事業のビジネスモデルを設計した7名のアントレプレナーの方に半構造化インタビューを実施した。これらの方に加えて、事業支援をした5名の方にもインタビューした。事例研究はまだ途中であり、インタビューは今後も継続していく予定である。現時点までにおいて、地域再エネ事業のビジネスモデルはそのまま他の地域の事業者に伝播していくわけではなく、ビジネスモデルを構成するコンポーネント単位で変更が加えられて取り入れられていることが明らかになってきた。イノベーションの普及研究は、これまでである一つの製品やアイデアがそのまま受け入れられることを前提としていたが、近年では普及の過程で変更が加えられたり（再発明、編集）、一部のみが普及（部分普及）したりすることに焦点が当てられるようになってきている。本研究でもビジネスモデル普及の複雑な過程に考察を加え、普及理論

の構築にも貢献したいと考えている。事例研究の現時点までの成果を 2023 年 3 月にオンライン開催された「企業と社会フォーラム 第 37 回東日本部会」で発表した。今後は、インタビュー対象者を拡大してデータの客観性を向上させていきたい。

地域再エネ事業の普及研究と並行して、本学における自然エネルギー100%化の活動の一環で取り組んできた学生の PBL (project-based learning) についても研究を行った。地域再エネ事業が普及していくためには参加する人材育成が重要な要素となる。学内で実施した複数のプロジェクトで企画・推進に携わった学生の主観が、それらの経験によってどのように変化したかをインタビューにより明らかにすることで、人材育成の参考としていきたいと考えている。このテーマについては同僚の杉本先生と共同で、9月に実施された環境学会の年会シンポジウムで報告発表を行った。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

研究ノート「ソーシャル、エコロジカル、サステナブル・アントレプレナーシップの概念整理 —地域再生可能エネルギー事業を想定して」、手嶋進、単著、*Policy Studies Review*, No. 50, 19-38、2022 年

【学会発表等】

「教室断熱化ワークショップの企画運営によるサステナビリティ人材としての能力育成」杉本卓也・手嶋進、環境学会 2022 年会 企画シンポジウム 8「PBL としての SDGs 活動：継続的な活動による能力開発の評価手法の検討」、2022 年 9 月 9 日（オンライン開催）

「サステナブル・アントレプレナーシップの普及 - 地域再エネ事業の事例研究」手嶋進、企業と社会フォーラム 第 37 回東日本部会、2023 年 3 月 18 日（オンライン開催）

3. 主な経費

研究用の PC が故障したため急遽 1 台購入した。文献研究のための書籍や論文の購入費用を使用した。学会の年会費や年次総会の参加費として支出した。当初予定していた地域再エネ事例のサイト訪問や学会出席のための交通費はコロナの影響で使用しなかった。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

千葉県酒々井町における地球温暖化対策実行計画策定検討委員会の委員長を務めた。地域のステークホルダーが参加する委員会で議長を務め、各委員の意見を引き出すことに努めた。